

北斗のリハビリロシアへ

日口首脳合意受けセンター開設準備

社会医療法人北斗(帯広、鎌田一理事長)はロシア・ウラジオストク市での「リハビリテーションセンター」開設に向けて、現地での調査や「日本式リハビリ」を紹介するプレゼンテーションなどを行い、準備を進めている。11月19日の日口首脳会談で合意した8項目の協力プランの作業計画に、北斗と日揮(本社横浜市)による同センター開設プロジェクトの支援が盛り込まれたこともあり、北斗では「これを弾みに来年中の開設を目指したい」としている。

北斗は2013年にウラジオストク市に「HOKU TO画像診断センター」をオープンし、同国での医療基盤を築いている。
北斗事務部インバウンド・ロシア事業担当の大島正夫課長によると、ロシアと日本ではリハビリに対して認識の違いがあり、「リハビリで20年以上の実績がある北斗がより効果的な措置

ウラジオストク市で日本式リハビリテーションを紹介する北斗病院の小岩理学療法科長(中央)



現地で日本式手法プレゼン

を提供すれば、患者の生活の質を向上できる」とセンター開設のメリットを説明する。

11月16、18日には現地の専門家に対して、リハビリに関する初のプレゼンテーションを行った。北斗病院(帯広)の小岩幹(もとき)理学療法科長が、脳卒中患者をモデルに日本のリハビリを紹介した。笑顔で対応し、患者のモチベーションや潜在的な力を引き出す日本の手法に関心が集まった。

第2回プレゼンは、11月30日から12月2日までの期間で実施。教育的な側面も兼ね、今月中にも第3回を行う。

現地調査を進める中、施設の場所はウラジオストク市郊外にある画像診断センター付近が、利便性の高い同市中心部で検討。5人体制で処置を行い、患者は1日30人ほどを想定している。日本の専門家が現地スタッフを指導し、開業の数

カ月前には帯広に招いてのトレーニングも行う。

北斗とセンターへの投資を検討している日揮は9月、ロシア極東開発省の下部機関である「極東人材開発公社」や沿海地方政府と、医療分野の投資に関する相互理解の覚書を締結している。

今月中旬のプーチン大統領の訪日時には、両首脳が医療分野での協力に向けた覚書に署名する見通し。北斗は「日本政府はロシア政府に対して、医療分野での規制緩和を働き掛けてほしい」とさらなる後押しに期待を寄せている。

(松村智裕)